

5 - 8 生態系

(1) 現況調査

1) 調査項目

調査項目は、生態系及び生物の生育・生息環境とした。

2) 調査期間

生態系に係る調査期間は、植物及び動物の調査期間と同じとした。

3) 調査地域

調査地域は、植物及び動物と同様、対象事業実施区域及びその周辺区域とした。

4) 調査方法

調査方法は、「上位性」(生態系の上位に位置する)、「典型性」(生態系の特徴をよく表す)、「特殊性」(特殊な環境等を指標する)の3つの観点から、植物及び動物の現況調査結果をもとに、注目される生物種、生態、他の生物種との相互関係及び生息・生育環境への影響を把握するものとした。

5) 調査結果

生態系

対象実施区域及び周辺地域における生態系の食物連鎖は、図5 - 60に示すとおりである。

調査地域の食物連鎖は、自然域の系に見られるような高次の消費者(猛禽類や肉食大型哺乳類)はなく、「上位性」に該当する動物種はないものと考えられる。よって「典型性」及び「特殊性」に該当する小型哺乳類を生態系における注目される生物種として選定した。

生物の生育・生息環境

対象実施区域及び周辺地域は全域が埋立地で平坦な地形であり、自然植生は存在せず、生態系も比較的単純なものとなっている。特に新工場の建設予定地はグラウンドとして利用されており、草本の繁茂はあるものの刈り込みが行われ常に攪乱されており、安定した系とはなっておらず、多くの動物の恒常的な生息域とはなっていないと考えられる。このような状況でも、自然域に比して少数ながら植栽の草本、樹木があり、それに依存した動物種が生息し、一つの食物連鎖が成り立っていた。

注目される小型哺乳類は、福島県以西の関東から西日本を主としてヨシ原等のイネ科高茎草地に生息し、草間に鳥の巣状の球巣を造って繁殖する。新門司埋立地の空地に成立したヨシ原で確認された小型哺乳類は、埋立地周辺部のヨシ原に生息していたものが侵入してきたと考えられる。対象事業実施区域で確認されたものも、新門司工場グラウンドで草刈りを中止した際、一時的にこのような草地が出現したために周辺から侵入し生息したものと考えられる。よって、対象事業実施区域は、この小型哺乳類の恒常的な生息地ではないと考えられる。

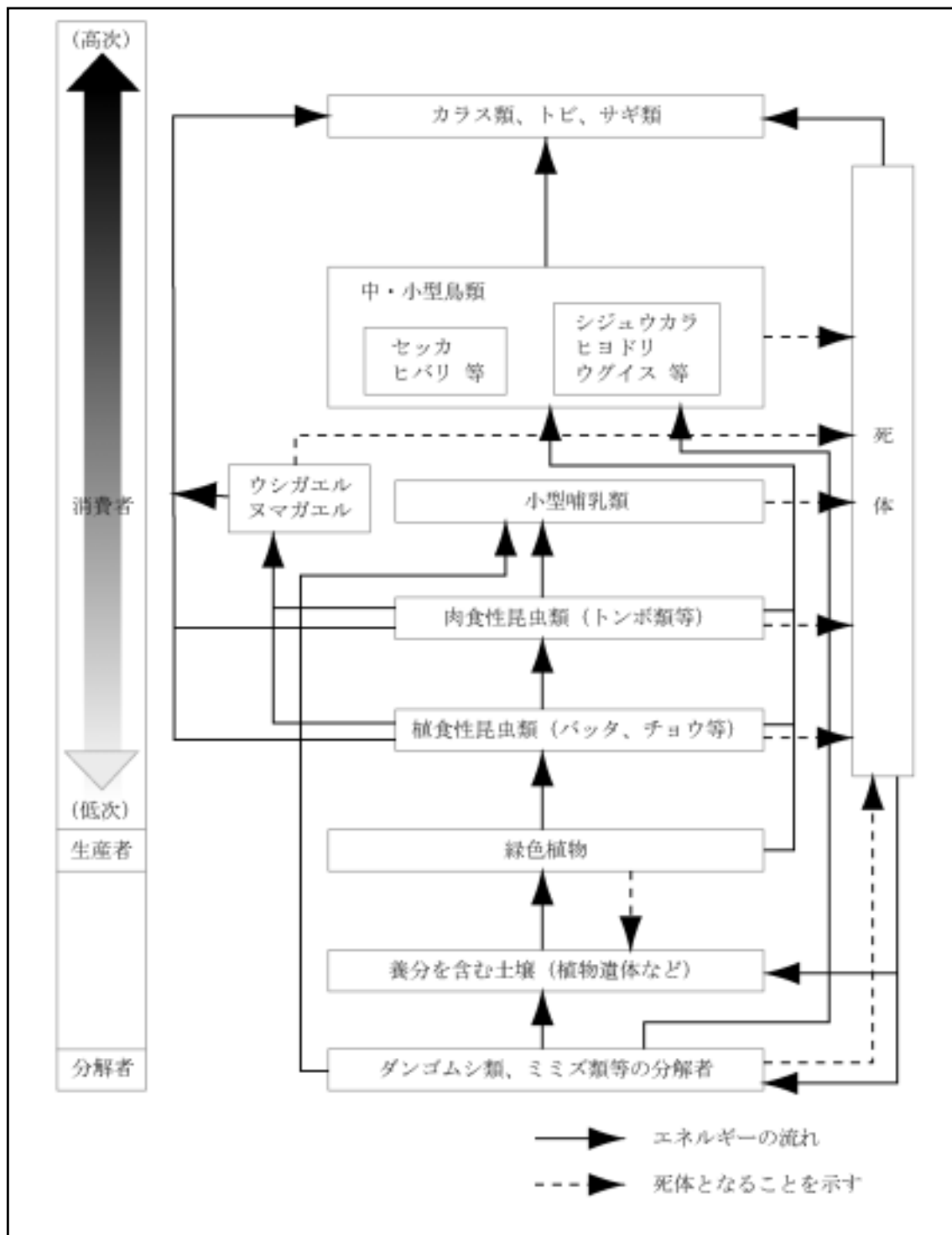


図5 - 60 食物連鎖図

(2) 予測及び評価

1) 環境保全対策

生態系の注目される生物種について、以下の環境保全対策を講じることとする。

- ・ 注目される生物種が生息に適した環境を創出する。

2) 予測

予測項目

現況調査において「典型性」及び「特殊性」に該当する生物種。

予測時期

新工場の施設が完成した時期とした。

予測地域

現況調査地域と同じ、対象事業実施区域及びその周辺区域とした。

予測方法

現況調査結果及び事業計画をもとに、注目される生物種への影響について予測した。

予測結果

対象事業実施区域が注目される生物種の恒常的な生息地とはなっていなかったことから本事業の実施による影響はほとんどないと考えられる。また、生息に適した環境を創出する等の環境保全対策を講じることにより、影響は低減されることが考えられる。

3) 評価

環境影響の回避・低減に関する評価

対象事業実施区域が注目される生物種の恒常的な生息地とはなっていなかったことから本事業の実施による影響はほとんどないと考えられるが、生息に適した環境を創出する等の環境保全対策を講じることにより、影響は低減されることが考えられる。